

施工01施工計画

- 1 H形鋼を用いた鉄骨鉄筋コンクリートの梁へのコンクリートの打込みについては、フランジの下端が空洞とならないように、フランジの両側から同時に打ち込む計画とした。
- 2 ネットワークによる工程表において、トータルフロートが最大のパスをクリティカルパスといい、これを重点管理することが工程管理上、最も重要である
- 3 施工計画書における基本工程表には、主要な工事項目とともに、監理者に求める検査、承認等の日程も記入し、監理者の承認を受ける。
- 4 施工要領書は、個々の工事については具体的に記載せず、どの工事にも共通に利用できるように作成した。
- 5 総合仮設計画図には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工事用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示する。
- 6 仮設計画は、請負者がその責任において定めた。
- 7 ネットワークによる工程表において、トータルフロートが最小のパスをクリティカルパスといい、これを重点管理することが工程管理上、最も重要である。
- 8 施工者は、監理者による鉄骨の工作図の承認を受けた後、設備工事における梁貫通スリーブの位置及び大きさを検討する。
- 9 鉄骨工事の工程計画において、鉄骨製品を現場に搬入するための事前工程を要する事項には、積算及び見積期間が含まれる。
- 10 ALCパネル工事の工程計画の作成において、下地鋼材の検討は、鉄骨図の監理者による承認の後に開始する。
- 11 デッキプレートにコンクリートを打ち込んだ屋根スラブにアスファルト防水工事を行う場合、下地を十分に乾燥させた後、当該工事に着手する計画とした。
- 12 流動化コンクリートの打込みに当たって、先に打込んだコンクリート上面等の傾斜面に沿って、コンクリートを横流しする計画とした。
- 13 ターンパックル付き筋かいを有する建築物の鉄骨の建方において、その筋かいを用いなくて建入れ直しを行う計画とした。
- 14 受注者は、工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し、設計図書に指定のない仮設物等も含めて、監理者の承認を受ける必要がある。
- 15 工種別施工計画書には、工期、使用材料、施工方法、品質管理、安全管理、養生方法等について記載した。
- 16 山留め工事において、隣地が住宅で、地下水位が高い軟弱な地盤を深く掘り下げる必要があったので、周辺地盤や構造物に与える影響の少ない場所打ち鉄筋コンクリート地中壁を採用した。
- 17 市街地において、地階が深く広い建築物の場合、工事の安全性、周辺への影響等を考慮して、逆打ち工法を採用した。
- 18 建築物の新築工事において、積載荷重1tの本設エレベーターを工事用として仮使用する場合、あらかじめエレベーター設置報告書を労働基準監督署長あてに提出することにより、エレベーターの据付工事完成直後から使用することができる。
- 19 工程表の作成に当たっては、気候、風土、習慣等の影響を考慮した。
- 20 工程計画において、仕上工事については、く体工事より工程の余裕を少なく計画した。

施工01施工計画

- 1 × 鉄骨鉄筋コンクリートで、特に、梁せいの大きい場合は、フランジ下端が空洞になりやすいので、片側からコンクリートを流し込み、反対側にコンクリートが上昇するのを待って、全体に打ち込む方法をとる。
- 2 × トータルフロートとは、その作業がとり得る最大余裕時間のことで、トータルフロートが0になる作業ルートがクリティカルパスである。
- 3 ○ 施工計画書における基本工程表には、主要な工事項目とともに、監理者に求める検査、承認等の日程も記入し、監理者の承認を受ける。
- 4 × 施工要領書は、各専門工事において、工期・使用材料・施工方法・品質管理・安全管理・養生方法等を具体的に記載する。
- 5 ○ 総合仮設計画図には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工所用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示する。
- 6 ○ 仮設計画は、請負者が設計図書等に基づき、自らの責任において定め、必要に応じて監理者の承認を得る。
- 7 ○ ネットワークによる工程表において、トータルフロートが最小のパスをクリティカルパスといい、これを重点管理することが工程管理上、最も重要である。
- 8 × 鉄骨の工作図は工場製作から現場施工完了までの施工計画が盛り込まれたものであり、工作図の承認前に、設備工事における梁貫通スリーブの位置や大きさ等の検討は十分されていなければならない。
- 9 ○ 鉄骨工事の工程計画において、鉄骨製品を現場に搬入するための事前工程を要する事項には、積算及び見積期間が含まれる。
- 10 × ALCパネル工事の工程計画の作成においては、鉄骨図の承認時期に合わせて下地鋼材の検討しておかななければならない。
- 11 ○ デッキプレートにコンクリートを打ち込んだ屋根スラブにアスファルト防水工事を行う場合、下地を十分に乾燥させた後、当該工事に着手する計画とする。
- 12 × コンクリートの打込み当たっては、品質変化や分離を防ぐために打込み位置に近づけて打込むこととし、横流してはならない。
- 13 ○ ターンパックル付き筋かいを有する構造物においては、その筋かいを用いて建入れ直しを行ってはならない。
- 14 × 設計図書に指定のない仮設物は対象外である。JASS1。工事敷地内における仮設資材、工所用機械の配置状況などを示す総合施工計画書を作成し、監理者に報告する。また、設計図書において指定された仮設物がある場合は、総合施工計画書にその内容を記述し、監理者の承認を受ける必要がある。
- 15 ○ 工種別施工計画書には、工期、使用材料、施工方法、品質管理、安全管理、養生方法等について記載する。
- 16 ○ 場所打ち鉄筋コンクリート地中壁は、止水性が高く、剛性が高いので周辺地盤や構造物に与える影響は少ない。
- 17 ○ 逆打ち工法とは本設の床梁を山留め支保工として利用しながら、地下躯体を上階から下階へと構築していく工法です。本設の床梁を切梁支保工として使用する為、地下工事の施工が安全で、周辺への影響が少ない。
- 18 × 積載荷重が1t以上の工所用仮設エレベーターは、設置届けの義務があり、設置後に労働基準監督署長の落成検査を受けなければならない。
- 19 ○ 工程表は、次の事項等を考慮して作成する。
 - ①気候・風土・習慣等の影響②施行計画書や、製作図・施工図の作成及び承諾
 - ③材料の準備、現場搬入④検査・試験等の時期と期間
 - ⑤関連工事の工程
- 20 × 躯体工事は、比較的計画通りに進行することができるが、仕上工事は工種が多いことや養生期間を必要とする工事もあるということから、工期の短縮がはかりにくいので、十分な工期を確保する必要がある。